

特別養護老人ホーム 緑愛園

広報誌

ひだまり

発行日 令和3年1月15日
発行者 指定介護老人福祉施設
緑愛園
施設長 芦崎 祐公
住所 札幌市清田区
北野1条1丁目6-28
メール ryokuai@hokuro.or.jp

新年のご挨拶

『経験値と成長』

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染者拡大に伴い、みなさまには大変ご心配とご負担をおかけいたしました。特に11月初旬の当デイサービスセンターにおける陽性者発覚、11月中旬には特養における「偽陽性（陰性）」の見解。この「偽陽性」は私たちにとっても困惑の内容でもありました。抗原検査で陽性のような反応が見られましたが、幸いにも2回のPCR検査で『陰性』であり、札幌市保健所から「偽陽性」の判断をもらったところであります。尚、この事態の報告を受けたご家族様には計り知れないご不安を与えてしまいましたこと、この場を借りてお詫びいたします。

この結論が出るまでには実に3日間の時が費やされ、我々としても最終結論が出るまでは最大級の感染対応を行い、防護服を着ての対応とさせていただきました。今となってみると、今回の事態は私たちが正しい知識における感染対応を学ぶ機会ともなりました。

このウイルスは私たちの生活様式はもとより、各業界にも新たなスタイルを定着させたことは皆様のご記憶にも新しいと思います。例えば、テレビ番組でよく見かけるようになった“リモート”や各業種での“テレワーク”など、その場にいなくても仕事ができることが明確となりました。もちろん、緊急事態を回避するために利用し始めたことは確かですが、これまで人類が構築してきたICTを駆使した世界が定着しつつあります。この状況から「人」の可能性・発想力・行動力のすごさを感じたところであり、介護業界にもICTや介護ロボットの導入が加速化しております。

実は緑愛園でもリモート面会を試みましたが、機械から出てくる音に馴染まない方やテレビを見ている感覚になる入居者様…など、リモートは入居者様に有効とはなりません。結果、Googleフォトを活用した日常の入居者様をご家族にお届けするサービスや室内における窓際面会（別紙同封しております）を考えたところでもあります。コロナ禍という制限のある中ではありますが、少しでも入居者様・ご家族様に今できる最大限のサービスを提供したいと考えたところでもあります。

これまでの耐え忍んできた未知の経験から2021年（令和3年）は、笑って「いい年だったね！」と言えるよう、職員一同更なる“経験”と“成長”を目指して参ります。



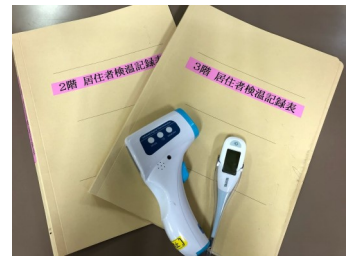
特別養護老人ホーム緑愛園
施設長 芦崎 祐公

新型コロナウイルス感染対策について

当施設では、新型コロナウイルス感染対策として以下の取り組みを行っています。

当施設の取り組み

- ①職員の検温・体調不良者の出勤禁止
- ②職員の手洗い・消毒・マスク着用の徹底
- ③入居者様全員の検温実施
- ④1日2回（12時、17時）に施設内の消毒
- ⑤常時施設内の換気
- ⑥外部業者への検温
- ⑦職員の休憩室の密を防ぎ、パーティションで飛沫を防止
- ⑧入居者様のグループ間の行き来制限
（感染を拡大させないため）
- ⑨ご家族様への面会制限
※冬期間の為、1階デイサービス玄関にてドア越し面会を行っております。ドア越し面会の詳細は、別紙にてご確認ください。



クリスマス会と忘年会

令和2年12月中旬から、各グループにて『クリスマス&忘年会』を開催致しました。1年の締めくくりとして皆様楽しんでいただけるように、お食事やプレゼントをご用意致しました。今年は入居者の皆様も我慢の1年でしたので、オードブル、手作りピザ、お鍋等の豪華な食事を召し上がり、楽しんでいただけたようです！



…あとがき…

お正月気分がようやく抜け・・・と例年であれば決まり文句を言いたいところですが、今年は“お正月”を感じるには物足りなさを感じた方も多いのではないのでしょうか。私も今年は初詣や初売りを控え、自宅の雪かきをしているうちに仕事始めとなりました。身体は休日を満喫したはずですが、心がリフレッシュされず、気持ちが引き締まらない今日この頃です。やはり、人には気分転換が重要です。私は外に出て発散するタイプですので、昨年苦行の1年でした。今年は、少しでも会いたい人に会える年になることを祈っています。（生活相談員 杉江）